

# イントロデュシグ・カツコ・イシガキ

9月6日(土)~10月4日(土) eitoeiko

## 「石垣克子」を観るにあたっての処方箋

石垣克子が沖縄以外の場所で、本格的な個展を開催するのは10年ぶりくらいだろうか。もちろんその事実は、石垣の作品の質とはいささかも関係なく、ただ単に、沖縄という文化的にコンテンポラリー・アートが盛んとは言い難い場所を拠点にするという、地勢的な問題に過ぎない。

私が石垣を知ったのは、私自身が沖縄に棲むようになってから、ここ5年ほど前から過ぎず、それから継続的に石垣の仕事を観続けるようになったのだけど、正直言って最初は彼女の作品の特質がまったく把握できなかった。彩度・明度ともに高い、オレンジや黄色を基調とした比較的単純な油彩画、油彩画と同様のイラスト的にデフォルメされたキャラクターが配置されたペン画。のんびりした沖縄に似つかわしい、楽天的で緊張感のない作品。当初、「基地沖縄」のハードな表現ばかりが、「沖縄の美術」と思いこんでいた私にとって、石垣の作品は極めて趣味的に見えた。

けれども、そんな私のまなざしが、「沖縄の美術」という先入見によって相当に曇っていることを自覚したのは、それでもしつこく石垣の活動を追っていく過程においてだった。それがいつだったかははっきり覚えていないが、小さな島である沖縄本島内部に限っても、石垣が個展や、彼女自身が組織するグループショーを、一年に何本も開催していくことに対して、驚きと、ある種の畏怖さえ覚えるようになった。先にも記したように、沖縄は必ずしもコンテンポラリー・アートが盛んに展開されるような土壌ではない。にもかかわらず、石垣は誰にも頼まれることなく（もちろんその中には依頼されて引き受けているものもあるとはいえ）、沖縄市にある自分のスタジオ兼発表スペースを拠点として、言わば「勝手に」展覧会を立て続けに開催するのだ。このことは、制作した作品を発表するという強いオブセッションがそこにあると考えると、説明がつかない。そもそも、こんなに作品を発表することに強い意志をもったアーティストは、沖縄に在住するアーティストに限らず、私は他に知らない。

そのように、石垣に対して畏怖の念を持つようになってから、彼女の作品を丁寧に観なければならぬと自覚するに至った。そこではっきりわかったことは、石垣には彼女特有の自己産出システムが内面化されているということだった。そのシステムとは、ある作品制作にかかわる行為が、継起的に連続していき、それらの連続がいわば系統樹的に発展していくというものである。そのシステムの論理は明示されることはないが、ある作品は別の作品を誘発し、タブローやペン画といった支持体や技法の差異を跨いで、各作品は相互に緊密な関係によって結び付けられている。マクロに見てしまえば、彼女の作品は「どれも同じ」と見えるかもしれないが、それは石垣の本質を見誤っている。「同じ」行為の反復から導き出されるミクロな差異こそ、石垣の作品生産プロセスのダイナミズムが宿っているものであり、そのシステムに観者が自らの思考を添わせないかぎり、彼女の作品の思考プロセスは理解できないだろう。そのプロセスは、漸次的な発展というよりも、様々な差異をともなったオブジェクトが互いに共鳴し合い、壮大なコスモス(いや、ここではガタリに做って「カオスマーズ」と言っておいた方がいいだろうか)を形成することに差し向けられている。

過去の巨匠の名前を比較対象として持ち出し、当該アーティストを持ち上げることの凡庸さを十分承知した上であえて言うが、石垣のような自己産出のシステムを内在化した画家は、私には晩年のピカソぐらいしか思いつかない。晩年のピカソのドローイング一点だけを取り上げて分析することがほとんど無意味なことと同様に、石垣の一点の作品を取り上げて、それに対して良し悪しを語ることで、無意味なことはないだろう。そうではなく、それが不可能であれども石垣の「全体像」を把握することに意味があるのであり、石垣に「感染」した観者は、そのような全体像を把握したいという不可能なる欲望を喚起させられるのである。

今回、東京で開かれる久々の石垣の個展は、彼女の膨大な「全体像」のほんの一面が提示されるにとどまるだろう。万一、この個展を観て「感染」してしまった観者は、畏怖すべき造物主に出会ってしまったことの不安と恍惚を生きるしかない。しかし、その「不安と恍惚」の世界にダイブすることは、そう悪い経験ではない。これが、石垣病罹患患者から提言できる、せめてもの処方箋である。

土屋誠一(美術批評家/沖縄県立芸術大学准教授)



ukaberu 379x455

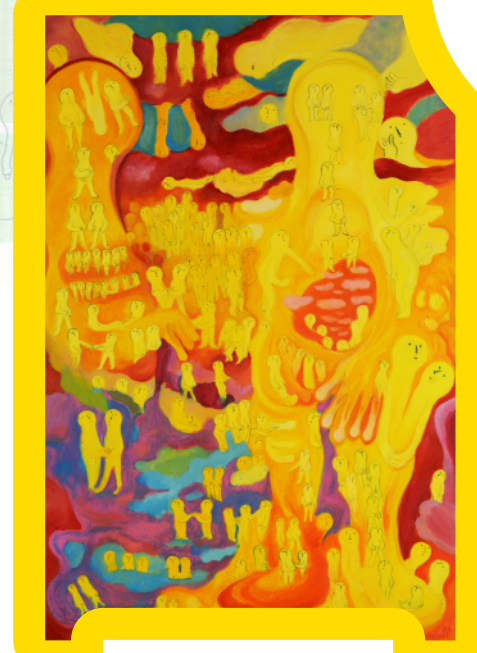


めぐりめぐる虹 909x1167

## トークイベント

石垣克子×土屋誠一  
9月27日(土)15時より  
入場無料

石垣克子  
1967 石垣市生まれ  
1991 沖縄県立芸術大学工芸学部美術学科絵画専攻卒業  
2005 Neo Vessel Areum CPS32 Gallery NY  
2008 黄金町バザール  
2011 大コルク展 沖縄県立芸術大学附属芸術資料館  
2012 夢現代∞美術展 浜田市世界子ども美術館  
Art is My Life - 沖縄の女性アーティスト 沖縄県立博物館・美術館  
2013 10年代の無条件幸福 eitoeiko  
ほか展覧会多数



アカイソラ 1000x652



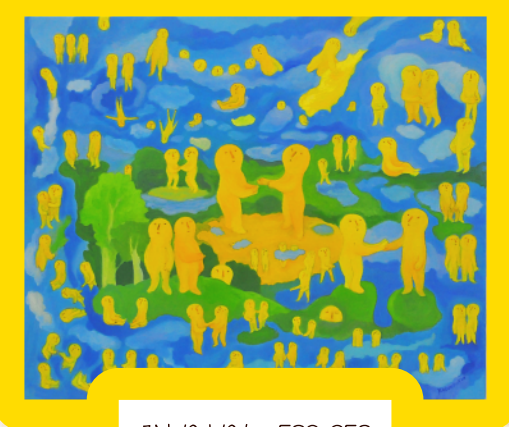
にわには 318x409



omowaku 455x379

カラーシュ作品も  
展示いたします。

石垣 克子 個展  
イントロデュシグ・カツコ・イシガキ  
2014年9月6日(土)~10月4日(土)  
オープニングパーティー-9月4日(土) 18時から21時  
eitoeiko  
〒162-0805東京都新宿区矢来町32-2  
03-6873-3830  
開廊12時から19時 日月祝休廊  
<http://eitoeiko.com>



ひとりよりも 530x652



草の中 318x409



ダンランラン 409x318